

どこからともなく湧き上がる拍手と歓声

さて、いよいよ第1レースのファンファレが鳴る。開幕日注目のオープンングレースとあり、大勢の視線がゲートに向けられた。シュペールは発馬を決めると果敢にハナを奪い、沢山の生徒が見守るスタンド前を先頭で駆け抜けた。その後も快調にレースを引っ張る。向正面、3、4コーナーにかけても脚色は衰えず、小嶋騎手の手応えの良い姿がターフビジョンに映った。これはもしや・・・勝利への期待が高まる。生徒たち熱い声援を一身に受けて、最後の直線を迎えた。

これまで何度と苦杯をなめてきた馬だが、この日のシュペールは違った。小嶋久輝騎手の叱咤激励に応

え、シュペールは更に伸びた。直線半ば断然のリードをとった。場内どこからか拍手と歓声が巻き起こる。気が付けば2着馬に4馬身の差をつけて堂々先頭でゴールインした。完勝の内容だ。次の瞬間にはカメラマンが一斉に生徒たちを捉えている。

え、シュペールは更に伸びた。直線半ば断然のリードをとった。場内どこからか拍手と歓声が巻き起こる。気が付けば2着馬に4馬身の差をつけて堂々先頭でゴールインした。完勝の内容だ。次の瞬間にはカメラマンが一斉に生徒たちを捉えている。

総勢130名 重賞並の豪華な口取り

となつた。ほほ笑ましい光景に多くのファンが温かく見守った。レース後、杉本先生は報道陣に囲まれていた。「非常に嬉しいです。あんなに強いとは・・・驚きです。生徒が応援に行ける日に使っていただき、関係者の皆さんに感謝しています」と、驚喜と感謝の思いでいっぱいのご様子だ。

シュペールの口取りに収まった馬主の鹿戸さんは幾千世牧場の社長で、この日は牧場スタッフと一緒に応援に駆け付けた。牧場スタッフの三代さんにレースの感想を伺うと、「前走が着外でしたから、今回は3着まで来ればと思つて応援していましたが、びっくりです。生徒さんが応援に来る時に勝つて良かったです」と、喜びを語った。ちなみに5月は幾千世牧場生産馬のエスポワールシチー

たウイナーズサークルにはぐるりと生徒が囲み、中央には生産に携わった生徒が招かれ、重賞レース並みの豪華な口取り

たウイナーズサークルにはぐるりと生徒が囲み、中央には生産に携わった生徒が招かれ、重賞レース並みの豪華な口取り

しずのう新聞

09.5.20 創刊号

がかしわ記念(Jpn1)を優勝、更なる朗報に沸いた。



勝利の喜びをかみしめる川島君(上)と口取りの様子(右)、生徒たちから力もらったという小嶋騎手とシュペール(下)



さて、興奮しきりの生徒たちから川島さんの姿を探した。祝いの握手を求めると、凛々しい表情に笑みを浮かべて手を差し伸べてきた。「最高です。感無量です。4コーナーを回っても手応えが良かったので、これならと思いました。シュペールには『お疲れさま』と声をかけたいです」と、こみ上げる思いを輝いて見えた。

シュペールの初勝利は生徒たちにとつて忘れがたい喜びを、また、大きな自信を与えたことだろう。初勝利を弾みに今後の活躍に期待したい。歴史が動いたこの日、様々な期待を込めて門別競馬場に集った人馬に幸あれと、門別の空は青く、夜空の星が輝いて見えた。